

「若者のクルマ離れ」に関する意識要因の分析と提言

情報学部 経営情報学科手塚ゼミ

b3p21079 鈴木裕貴

【卒業論文概要】

今の時代、車は無くてもならないものであるが、この車は私達の生活だけでは無く、日本の経済をも支える物となっている。日本だけでは無く、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど様々な国と地域で日本の自動車メーカーは活躍し、年々、生産台数を伸ばし続けている。しかし日本は今、大きな問題に直面している。それが、若者の車離れである。少子高齢化が進み、日本の人口が減っている中で、若者の車離れは、国内の自動車産業に大きなダメージを与えている。私は、この若者の車離れの問題についての現状と改善案を考え、若者達にもっと車の魅力を知ってもらいたいと考えた。そこで、私は文教大学の学生に車の魅力と意識調査を測るためアンケートを実施した。そのアンケートで分かったことは、若者の車に対する意識や魅力が、家具や洋服などの物や、旅行などに傾いていた。そして、車に関心がある学生は4割で留まり、免許保有率が4割であった。そこで私はアンケートを参考に、若者の車に対する関心を持ってもらう方法を考えることにした。まず、若者に向けたサービスの提供を強化する案を考え、若者に向けた車の講演会である。車の魅力や、買い方、質問会を開き、車に対しての不安を取り除く方法である。主に高校や大学で実施し、若者に少しでも車の魅力をかんじてもらえるのではないのだろうかと考えた。こういう地道な行動が若者の心には感じやすいものである。